

2011年11月30日

## **SAAJ** NEWS RELEASE

### IASBの「アジェンダ協議2011」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(会長：稲野和利 野村アセットマネジメント取締役会議長)は、2011年7月に公表された「アジェンダ協議2011」について意見書を作成し、11月30日(水)に国際会計基準審議会(以下IASB)へ提出しました。

#### 【意見書のポイント】

- ✓ 新規基準の開発よりもこれまでに導入された基準の定着を図るべき時期であるという観点から、我々は今後数年間のIASBのプライオリティは、第1に概念フレームワークの整備、第2に適用後レビューの推進、第3に当面は新規基準開発を緊急性のある少数案件に絞り、プラットフォームの安定化を図るべきと考える。
- ✓ 概念フレームワークにおいては、フェーズBの「構成要素及び認識」において利益概念を定義することが望まれる。利益の認識に関し、我々は一貫してOCI項目は全てリサイクルすべきであると主張してきた。現代会計基準の根幹に関わる利益およびリサイクリングについての概念整備は、国際財務報告基準(以下IFRS)を頑健な会計基準にするために必須のプロセスであり、「構成要素及び認識」の中から利益およびリサイクリング問題のみを先行検討するなど、迅速化の検討を行うよう提案する。
- ✓ わが国の一部には未だに、IASBは資産負債の全面時価評価を最終的な目標にしているという見方がある。こうした見方を払拭するためにも、概念フレームワークのフェーズC「測定」において資産負債の評価基準を明確化することが望まれる。
- ✓ IASBは基準開発2年後に適用後レビューを行うとしているが、我々はこの適用範囲を拡大し、以前に開発された基準やIFRIC等のガイダンスも対象にすべきと考えている。開発費の資産計上や固定資産の減損の戻し入れなど、IFRSと米国の会計基準(USGAAP)、日本の会計基準(JGAAP)が相違している点についての適用後レビューは、これら両基準とのコンバージェンスに重要な示唆をもたらす可能性もある。

#### 【添付資料】

資料1 *re: Comments on Request for Views on "Agenda Consultation 2011"*

資料2 「Agenda Consultation 2011」についての意見書

本件に関するお問い合わせは下記まで

日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第一企画部長 かいます 貝増 眞